

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和3年度12月号

○ 概要

- (1) 令和3年12月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,974億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+3.2%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,981円（伸び率▲0.0%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,768億円（伸び率+4.5%）薬剤料が5,193億円（伸び率+2.8%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,036億円（伸び率▲2.5%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,916円（伸び率▲0.8%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.79種類（伸び率+0.3%）、28.8日（伸び率+0.4%）、74円（伸び率▲1.4%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料4,134億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+99億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の747億円（伸び幅+44億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+54億円（総額470億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,134 億円 (+99 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(747 億円)	21 循環器官用薬 (693 億円)	11 中枢神経系用薬 (632 億円)
0歳以上 5歳未満	24.0 億円 (+0.6 億円)	44 アレルギー用薬 (9.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.3 億円)	61 抗生物質製剤 (3.3 億円)
5歳以上 15歳未満	90.1 億円 (+8.2 億円)	44 アレルギー用薬 (32.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (26.9 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(6.8 億円)
15歳以上 65歳未満	1,487 億円 (+50 億円)	11 中枢神経系用薬 (306 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(285 億円)	21 循環器官用薬 (215 億円)
65歳以上 75歳未満	985 億円 (+16 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(213 億円)	21 循環器官用薬 (189 億円)	42 腫瘍用薬 (150 億円)
75歳以上	1,547 億円 (+25 億円)	21 循環器官用薬 (285 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(241 億円)	11 中枢神経系用薬 (198 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,981円（伸び率▲0.0%）で、最も高かったのは高知県（12,195円（伸び率+2.0%））、最も低かったのは佐賀県（8,334円（伸び率+2.1%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは徳島県（伸び率+2.8%）、最も低かったのは岩手県（伸び率▲2.9%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	81.8 %	▲0.1 %
薬剤料ベース	19.9 %	▲1.1 %
後発品調剤率	78.3 %	+0.7 %
（参考）数量ベース（旧指標）	58.7 %	+0.2 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲2.5 %	+7.2 % (50歳以上 55歳未満)	▲8.4 % (75歳以上 80歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.9 %	28.6 % (100歳以上)	11.3 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	81.8 %	86.3 % (100歳以上)	76.8 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	882 億円 (▲35 億円)	21 循環器官用薬 (262 億円)	11 中枢神経系用薬 (158 億円)	23 消化器官用薬 (108 億円)
0歳以上 5歳未満	8.7 億円 (+0.2 億円)	44 アレルギー用薬 (4.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.8 億円)	61 抗生物質製剤 (0.6 億円)
5歳以上 15歳未満	16.1 億円 (▲1.1 億円)	44 アレルギー用薬 (9.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.9 億円)
15歳以上 65歳未満	298 億円 (▲4 億円)	21 循環器官用薬 (76 億円)	11 中枢神経系用薬 (66 億円)	44 アレルギー用薬 (33 億円)
65歳以上 75歳未満	210 億円 (▲11 億円)	21 循環器官用薬 (79 億円)	11 中枢神経系用薬 (26 億円)	23 消化器官用薬 (25 億円)
75歳以上	349 億円 (▲19 億円)	21 循環器官用薬 (106 億円)	11 中枢神経系用薬 (64 億円)	23 消化器官用薬 (51 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,482 円	1,910 円(北海道)	1,245 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲5.6%	▲2.3 %(佐賀県)	▲8.3 %(岩手県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	81.8 %	89.3 %(沖縄県)	78.2 %(東京都)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.9 %	23.6 %(鹿児島県)	17.0 %(京都府)
後発医薬品調剤率	78.3 %	84.9 %(沖縄県)	73.3 %(東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.7 %	67.0 %(沖縄県)	54.4 %(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年12月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。